

杉並区 令和元年度協働提案事業(令和2年度～3年度実施事業)

障害分野と高齢分野の連携推進事業

資料2

しょうがい ぶんや こうれい ぶんや
障害分野と高齢分野の
つうしょ さーびす こうじょう
通所サービス向上に
むけ じったい ちょうさ
向けた実態調査

むさのし だいがく
武蔵野大学

人間科学部社会福祉学科教授

わたなべ ひろふみ
渡邊 浩文

調査の目的と方法

【調査の目的】

杉並区にお住まいの身体障害者手帳等をお持ちの方、難病患者等及びその家族を対象に、通所サービスの利用に関すること及び

生活の困りごとなどについての調査

→通所サービスに対する障害当事者及びその家族のニーズを明らかにし、杉並区における障害当事者及びその家族の生活の質の向上に向けた通所サービスのあり方を明らかにする。

ちょうさ ほうほう
【調査の方法】

げんざい つうしょがた さーびす りよう りようしゃ および
○現在、通所型サービスを利用している利用者、及びその
かぞく たい すぎなみく しょうがいしゃ そうごう しえんほう もと
家族に対しては、杉並区にある、障害者総合支援法に基づ
せいかつかいご しょうろうけいぞくしえん ビーがた じぎょうしょ つうじ はいふ
く生活介護、就労継続支援B型の事業所を通じて配布した。

つうしょがた さーびす りよう しょうがい どうじしゃ および か
○通所型サービスを利用していない障害当事者、及びその家
ぞく たいし すぎなみく ほけん ふくしぶ しょうがいしゃ せいかつ しえんか つうじ たい
族に対しては杉並区保健福祉部障害者生活支援課を通じて対
しょうしゃ ちゅうしゅつ ゆうそう じっし
象者を抽出し、郵送にて実施した。

ちょうさ れいわ 2 ねん 6 がつ 1 にち から 6 がつ 30 にち あいだ じっし
○調査は、令和2年6月1日～6月30日までの間に実施した。

かいしゅうりつ

回収率

<small>ちょうさたいしょう</small> 調査対象	<small>はいふ</small> 配布	<small>かいしゅう</small> 回収 (%)
通所型サービスを利用している障害当事者	747	346 (46.3)
通所型サービスを利用している障害当事者の家族	747	314 (42.0)
通所型サービスを利用していない障害当事者	29	12 (41.4)
通所型サービスを利用していない障害当事者の家族	29	16 (55.2)

回答者の概況

かいとうしゃ

がいきょう

つうしょ

さーびす

りょうしゃ

かぞく

(通所サービス利用者とそのご家族)

つうしょ

さーびす

りょうしゃ

ねんれい

ぶんぷ

○通所サービスご利用者の年齢の分布

30 から 49

さい

4わりじゃく

さい

1わりじゃく

- ・ 30～49歳が4割弱、65歳は1割弱

つうしょ

さーびす

りょうしゃ

かぞく

ねんれい

ぶんぷ

○通所サービスご利用者のご家族の年齢の分布

40 さいいじょう

64 さいいか

4わりきょう

- ・ 40歳以上64歳以下が4割強

3 わりきょう

65さいいじょう

1 わりきょう

75さい

いじょう

- ・ 3割強が65歳以上（1割強が75歳以上）

かぞく

どうきよ

じょうきょう

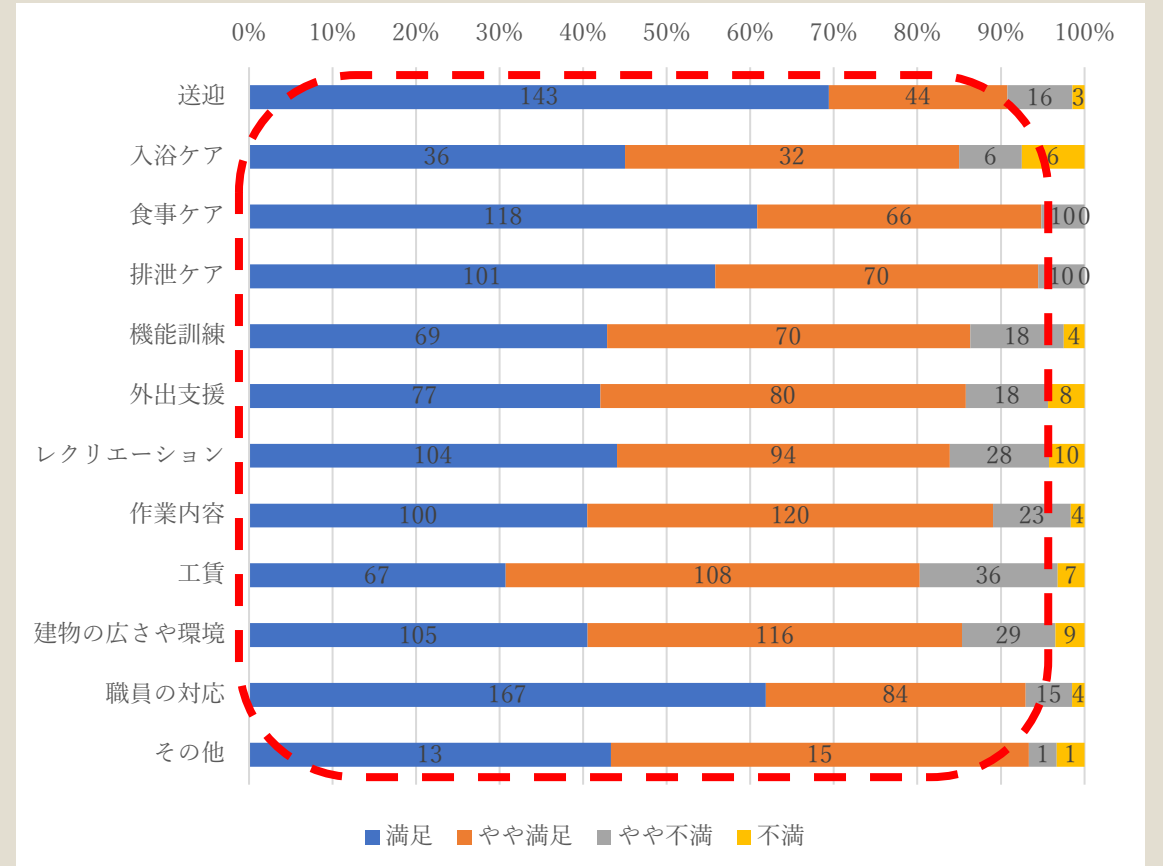
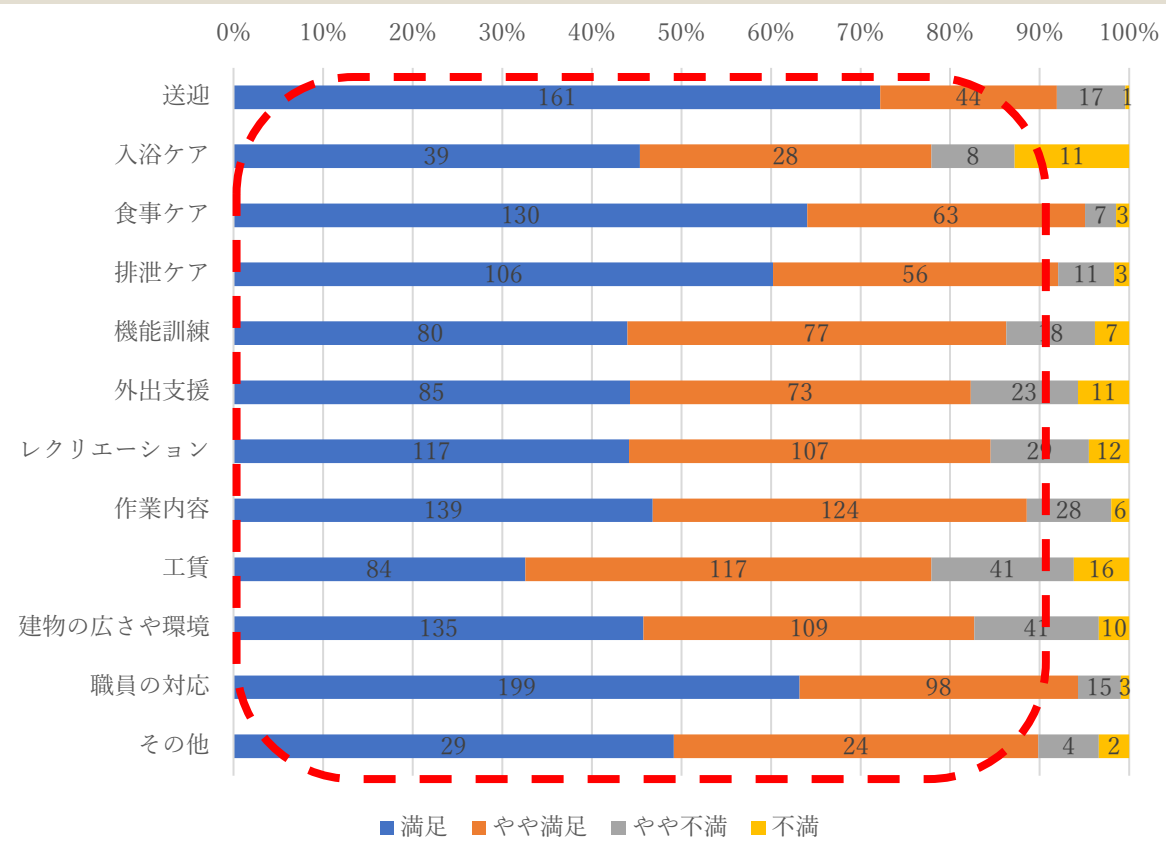
○ご家族との同居の状況

8 わりじゃく

どうきよ

- ・ 8割弱が同居

通所サービスの満足度



そうげい・にゅうよく・しょくじ・はいせつ・きのうくんれん・がいしゅつしえん・れくりえーしょんつうしょん・さぎょうないよう・こうちん・たてもののひろさ
 送迎・入浴・食事・排泄・機能訓練・外出支援・レクリエーション・作業内容・工賃・建物の広さ

かんきょう・しょくいん たいおう

まんぞく

まんぞく

おおむね 80 ぱーせんと

や環境・職員の対応→「満足」「やや満足」で概ね80%

不満・やや不満の自由記述

○「工賃」に関すること

「もう少し工賃を上げてほしい。」 「工賃はほとんどない」

○職員の定着率、スキルに関すること

「職員が次々に入れ替わり定着しない」「何よりも職員の定着。そしてスキルの向上を願っている。」

○建物に関すること

「建物の老朽化」「入浴設備がない」

○送迎そうげいに関するかんすること

「ぐるーぷホームからかたみち片道1時間40分ふんかかります。」

「送迎そうげい、自宅じたくのまえ前の道みちを送迎バスそうげいが通とおるるが、自宅前じたくまえには停とまってまってもらえない」

「遠方えんぽうのためバスばすを利用りようしたいが該当地域がいとうに入ちいきってないためはいって」

「バスばすポイントぽいんとまで遠とおいい」

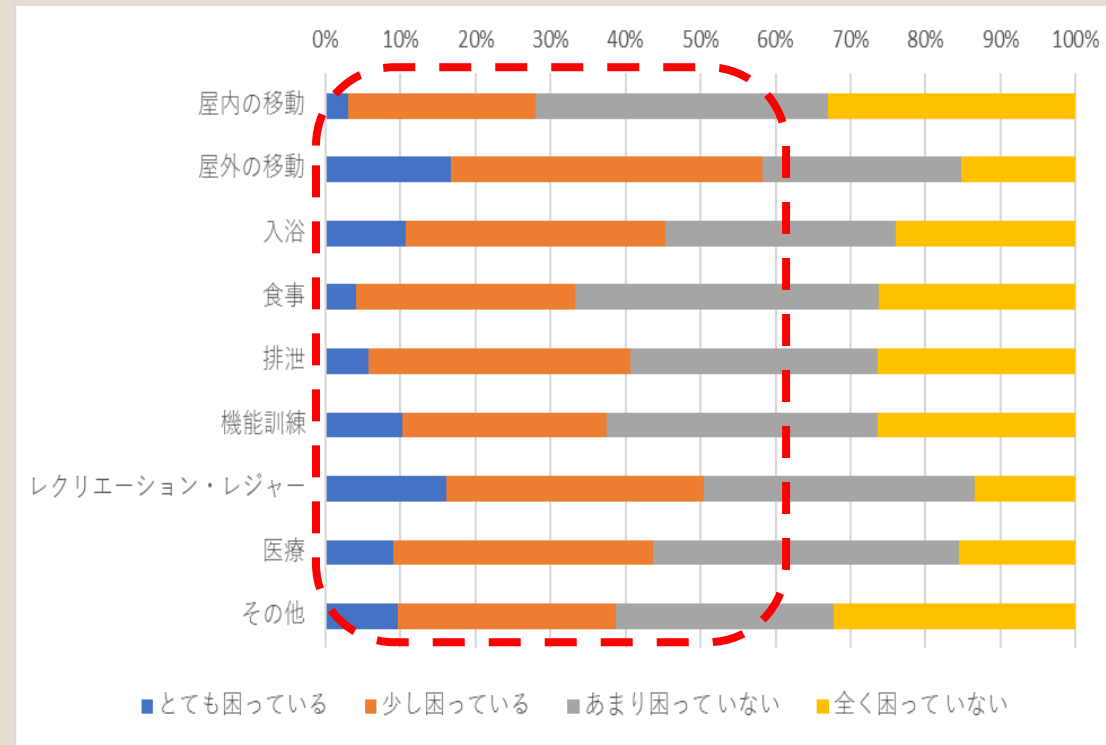
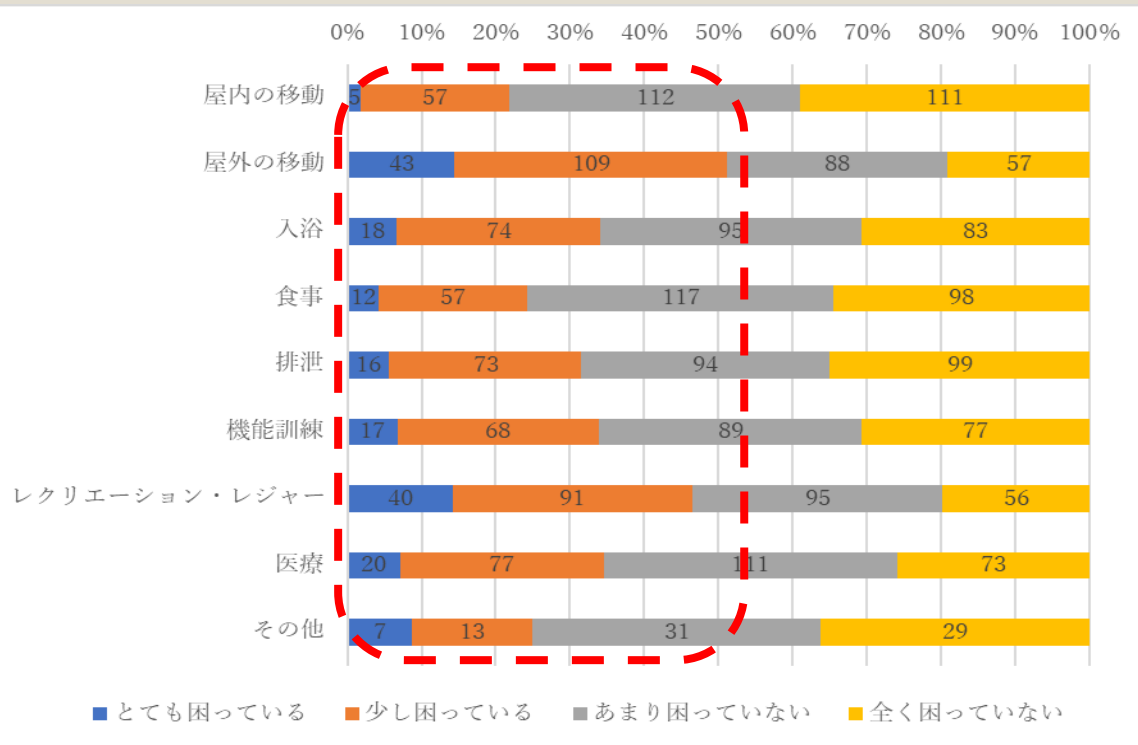
○サービさーびすス内容ないように関するかんすること

「元来がんらい、現在げんざい通かよわせわせている施設しせつに入浴にゆうよくケアケアサービスサービスは無ないい」

「期間内きかんないで工夫くふうして行おこなわわれていると思おもいますが、もう少すこしし訓練くんれんの場面ばあい、時間じかん帯たいが欲ほしいしいところです」

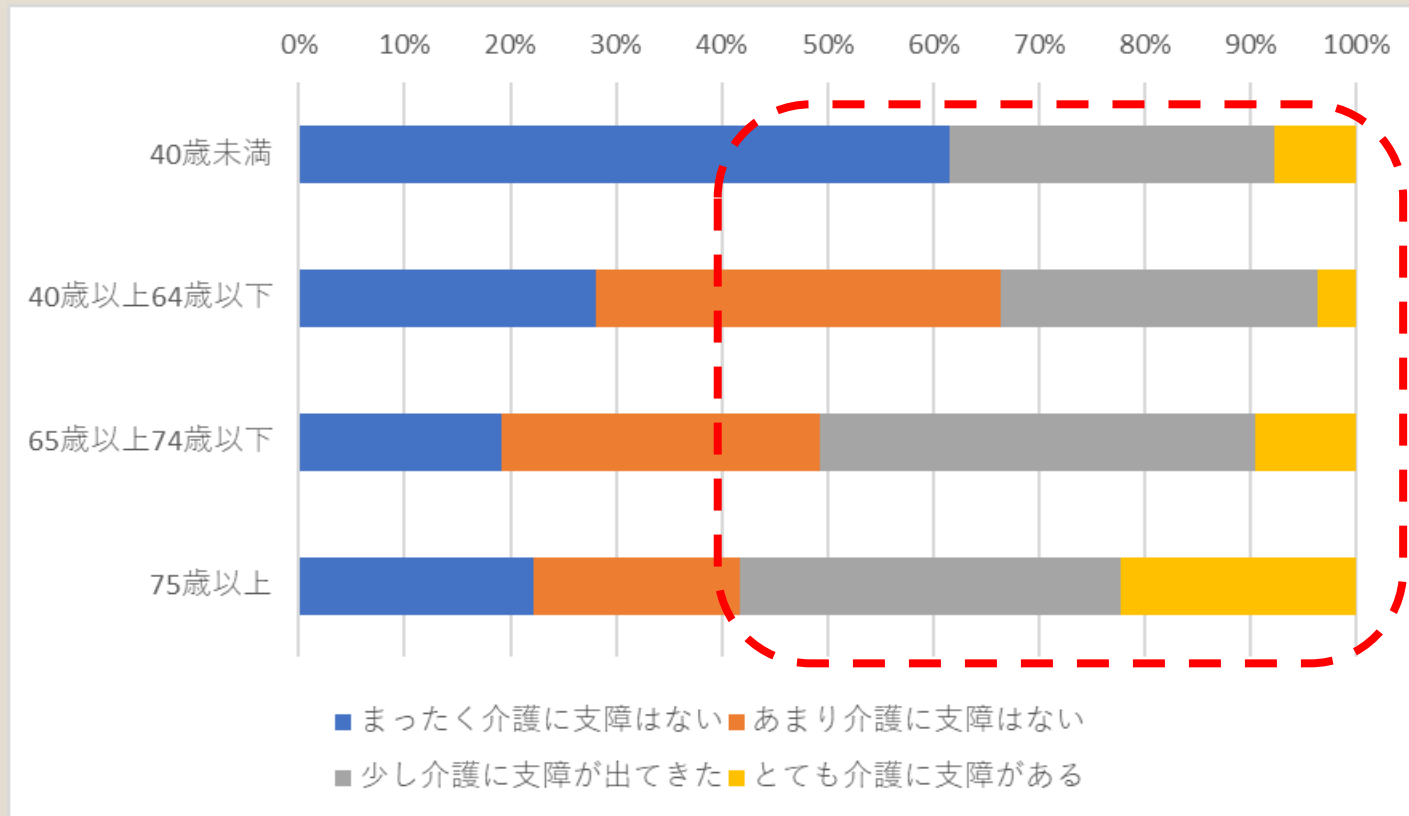
「もう少すこししレクレーシれくりえーしょんョン（外出がいしゅつ、遠足えんそくなど）があるよいと良い」

通所サービス利用時間外で困っていること



通所サービスでの困っていることに関して、「とても困っている」「少し困っている」と回答したものが40%以上だった項目として「**屋外の移動**」「**レクリエーション・レジャー**」であった。

家族の年齢と介護の支障の程度



○通所サービスを利用している障害当事者の家族の年齢と介護の支障の程度をみると、「40歳以上64歳以下」から、年齢階層が上がるにつれて、「とても介護に支障がでてきた」の占める割合が増加していた。

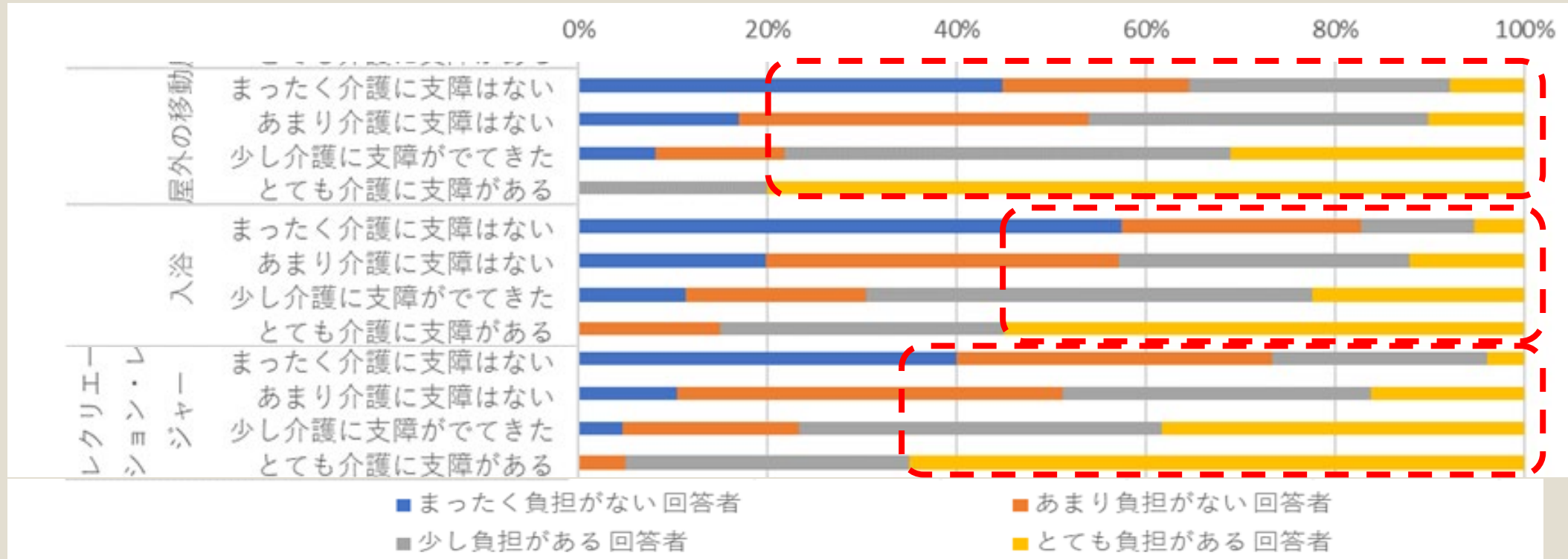
かぞく

けんこうじょうたい

かいご

ふたんかん

家族の健康状態と介護の負担感



○通所サービスを利用している障害当事者の家族の健康状態と介護の負担感をみると、すべてのケア(屋内の移動、屋外の移動、入浴、食事、排泄、機能訓練、レクリエーション・レジャー、医療)において、健康状態が介護に支障がある程度が増すほど、介護の負担感が増していた。「とても負担がある」の回答については、「屋外の移動」(80.0%)「入浴」(55.0%)「レクリエーション・レジャー」(65.0%)が特に割合が高い項目だった。

自由記述（年齢に関すること）

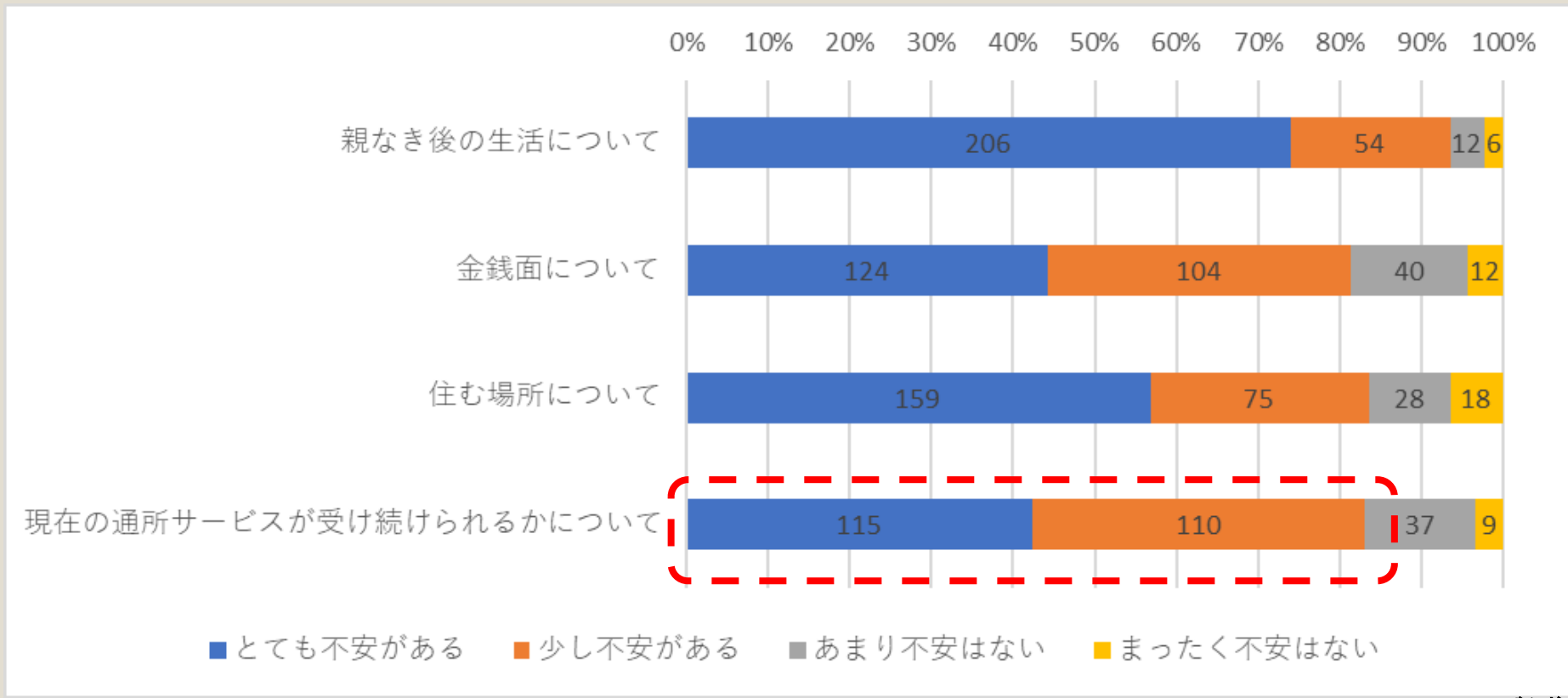
「自分自身が悪い所が出てきたり、体力が落ちてきたとのこと。当事者の体力も落ちてきて、介護度が高くなったため、負担を感じるようになった。たとえば、当事者の歩行の出来る距離が短くなり、車イスに乗ることが多くなった。自分の体力が落ち、長時間車イスを押すことを重いと感じるようになった、など」

「高齢になるにつれ、本人の体力について行けなくなってきた。親自身が病気にかかり、以前のように世話をするのが困難になりつつある」

「70才を越えて車の運転を止めたので遠出は出来なくなり又外出先の慣れない場所での介助が難しくなりました。トイレも1人介助では困難」

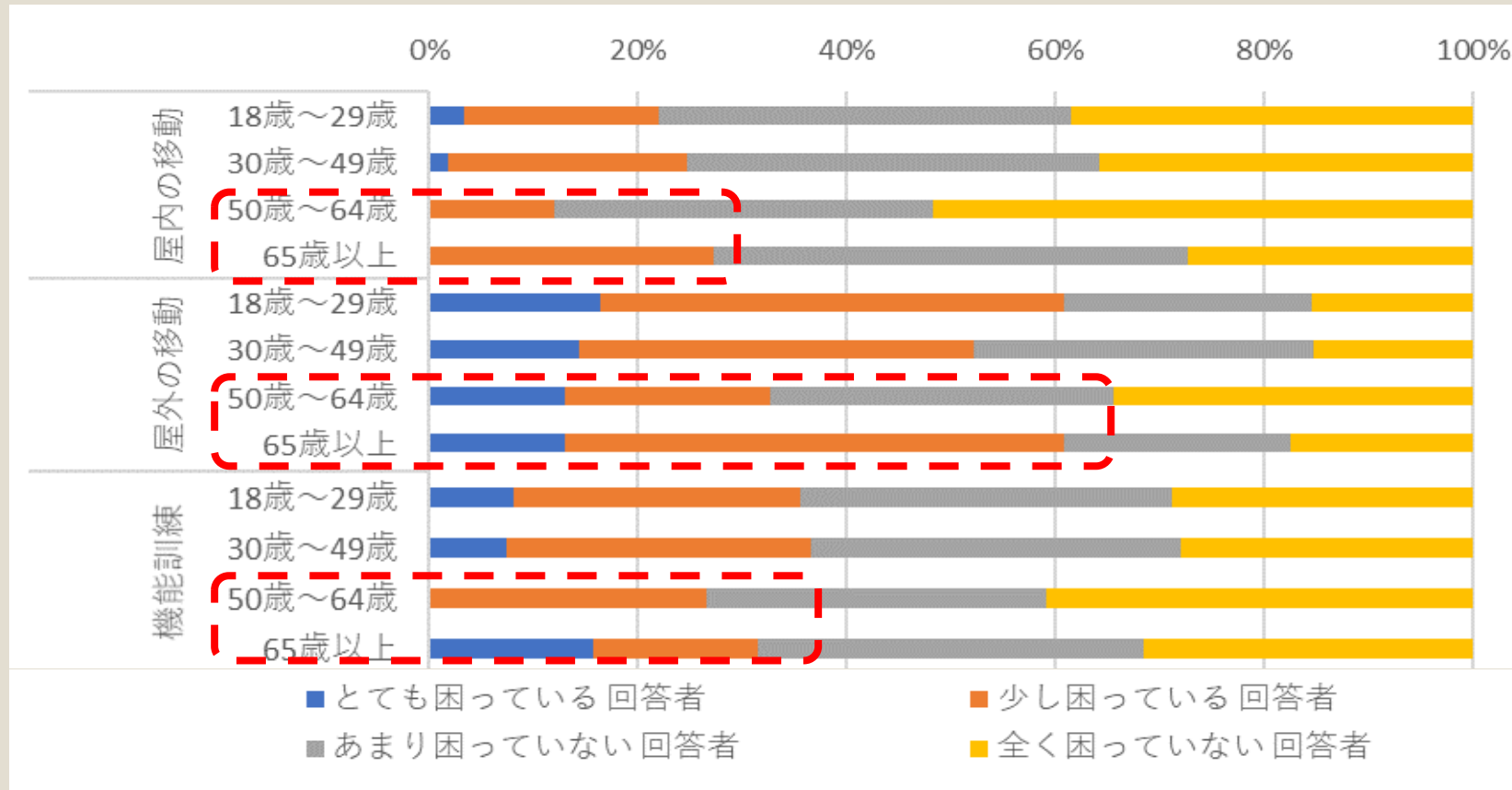
「本人は1人で外出できないので、必ず付き添いがついて、車を運転しないといけないのが、年とともにヒザや目が悪くなり、運転が疲れ、負担になってきた」

介護者が抱える将来の不安



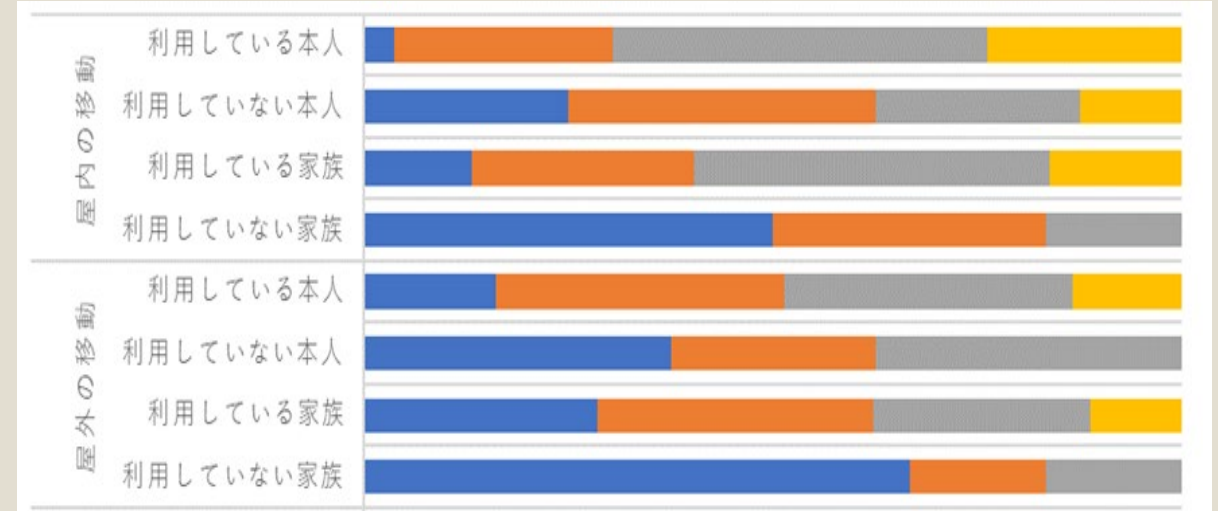
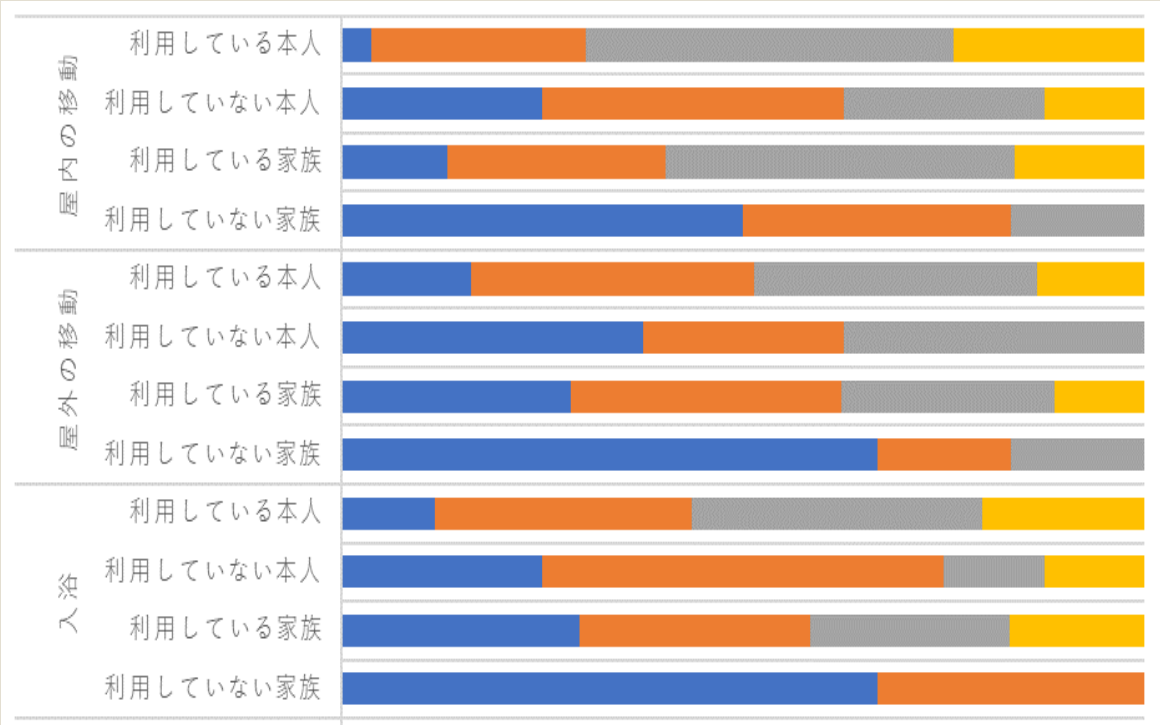
障害当事者の将来に対する不安に関して全ての項目に対して80%以上が「とても不安がある」「少し不安がある」と回答した。「**現在の通所サービスが受けられるかについて**」については、230人(83.3%)が「**とても不安がある**」「**少し不安がある**」と回答した。

通所サービスを利用する障害当事者の年齢区分と困りごと



通所サービスを利用する障害当事者の年齢区分と困りごとについて、**「屋内の移動」「屋外の移動」「食事」**については、50歳～64歳の割合に比べ、65歳以上の回答割合が増えていた。

通所サービスを利用していない時間帯の困りごと



■ とても困っている (本人) /とても負担がある (家族)
■ 少し困っている (本人) /少し負担がある (家族)
■ あまり困っていない (本人) /少し負担がある (家族)
■ まったく困っていない (本人) /まったく負担がない (家族)

通所サービスを利用している本人・家族は、サービス利用時間以外で困っていること、通所利用し
 ていない本人・家族の困っていることを比較してみると、「とても困っている」「少し困って
 いる」を合わせた割合は、障害当事者の「レクリエーション」「医療」及び、家族の「機能
 訓練」以外は、通所サービスを利用していない本人・家族のほうが、割合が高かった。

まとめ

○^{つうしょ}通所^{さーびす}サービスの^{りよう}利用について、^{しょうがいとうじしゃ}障害当事者^{および}及びその
^{かぞく}家族の^{おおく}多くは、^{たかい}高い^{まんぞくで}満足度^{しめし}を示していた。

○^{いっぽう}一方、^{しょうすう}少数ではあるが、^{ふまん}不満、^{ふまん}やや不満とする^{かいとう}回答が
みられた。その中には^{そうげい}送迎や、^{にゆうよくとう}入浴等の^{さーびす}サービスについ
ての^{ふまん}不満が、^{じぎょうしょ}事業所の^{りっち}立地や^{せつびめん}設備面などの^{じょうきょう}状況から^{しょうじ}生じ
ていると思われ^{おもわ}るものもあった。

○家族介護者については、加齢や健康状態の悪化が介護負担の増大に結びつき、現状の通所サービスだけではそれに対応しきれていないニーズの存在が示唆された。

○障害当事者においても、65歳以上になると、それ以前の年齢層に比べ、通所サービスにおいて加齢に伴う心身の変化により新たなニーズが顕在化する状況が示唆された。

○通所サービスを利用していない障害当事者及びその家族は、通所サービスを利用している本人・家族と比較して、日常生活において困難さが大きいことが示唆され、それに対応する通所サービスの対応力の向上及び、選択肢を増やす必要性が示唆された。

ちょうさ きょうりょく みなさま
調査にご協力いただいた皆様

きちょう いげん およせ
貴重なご意見をお寄せいただき

ありがとうございました。